

主な未侵入病害虫の解説

今回は、北アメリカに分布するアメリカオビカレハとナラしおれ病を紹介する。

アメリカオビカレハは、アメリカ合衆国東部ではごく普通にみられ、ロッキー山脈の西方まで分布し、カナダでも発生がみられる。

本種はバラ科植物を好み、特にリンゴやオウトウで発生し、リンゴなどで発生が多い場合は、その年の収穫が減少するだけでなく、翌年の花芽が形成されなくなる。

その他に広範囲の落葉性の森林樹や緑化樹など

を加害する。

ナラしおれ病はアメリカ合衆国の中央部から東部にかけての地域に発生している。

本菌は約20種のナラ類及びフリ類に寄生し、萎ちよう症状を起こす。特に、レッドオーク類では被害が著しく、病徴の進行が極めて早く、成木でも発病して数週間で枯死する場合もある。

わが国の植物検疫では両病害虫の侵入を警戒している。

アメリカオビカレハ

学名: *Malacosoma americanum* (Fabricius)

英名: eastern tent caterpillar

分布 北アメリカ

寄主 リンゴ、モモ、オウトウなどバラ科、ブナ科、カバノキ科、ヤナギ科、カエデ科など

形態 成虫の前翅長は雌で16~22mm、雄ではこれよりやや小さい。体色は雌雄とも全体に鈍い赤褐色で、雄はより暗色である。前翅には細く白いほぼ平行な2本の斜線がある。一方、わが国のオビカレハの体色は雄が雌より淡い暗赤褐色で、前翅の斜線が褐色であることから識別できる。

卵は長円形で長さ約1mmで、小枝の周囲を帯状にとり巻くように150~400個の卵塊として産下される。卵塊表面は二カワ質の泡で保護されており、大きいものでは長さ19mmに達する。

老熟幼虫は黒色で体長約50mmに達する。背面中央には一本の白色縦線が走り、側方には青色と白色の斑点が並ぶ。毛は黄色を帯び細く柔らかい。

蛹は体長16~19mm。全体に褐色で翅・脚部を除

いて褐色の短い軟毛を装う。繭は長さ約25mmの卵形、白色で黄色粉を有する。

生態 発生は年1回、卵で越冬し、春先に寄主植物が芽をふくころふ化する。通常一つの卵塊、時には複数の卵塊からふ化した幼虫が集団になって、枝わかれているところに糸を張り、不透明な天幕状の巣をつくる。1日3~4回、昼夜にわたり巣と葉の間を移動し摂食する。幼虫はふ化後6週間程度で老熟し、7月初旬頃、樹幹、フェンス、地上の堆積物の間、建物などいろいろな場所で繭をつくり蛹化する。蛹期間は3週間、羽化後間もなく交尾・産卵する。

被害 バラ科植物を好み、特にリンゴやサクラノボのほか、広範囲の落葉性の森林樹や緑化樹を加害する。幼虫の発生が多いと木を丸坊主にし、リンゴなどではその年の収穫量を減ずるばかりでなく翌年の花芽ができなくなる。

防除 発生国ではリンゴなどの花蕾がピンク色を呈するところにダイアジノン剤、マラソン剤、NAC剤などが散布されている。

ナラしおれ病

学名: *Ceratocystis fagacearum* (Bretz) Hunt

英名: oak wilt

分布 北アメリカ

寄主植物 レッドオーク、ホワイトオークなど

病原菌 糸状菌の一種で子のう菌類に属し雌雄異株性である。菌糸は無色から褐色である。

分生子は無色、円筒形、単胞で大きさ $2\sim4.5\times4\sim22\mu\text{m}$ である。子のう殻は黒色、フラスコ形、殻壁は皮革状、頸部は長さ $250\sim450\mu\text{m}$ 、黒色で先端に無色の飾毛がある。子のうは球状または垂球状で8胞子を有する。子のう胞子は無色、単胞、大きさ $2\sim3\times5\sim10\mu\text{m}$ の長楕円形で、わずかに湾曲する。本病は根と根の融合によって、また、ケシキスイ科の数種が病原菌を体に付着して運ぶことによって伝播される。

被害と病徴 レッドオークでの被害が著しく、り病樹は発病後4～6週間で枯死することもある。

レッドオークでの病徴は枝の先端にしわを生じ、

葉色が青色になり葉の先端及び両側から基部に向かって青銅色または褐色に逐次変化する。葉柄に近い部分は緑色に残っているのが普通で後に落葉する。若葉は萎ちようし、徐々に先端から黒色になる。り病樹の新しい白木質には褐色または黒色の病斑を生じることもある。葉の萎ちようの後、梢・枝・幹の順に枯死して、秋には樹全体が枯死する。

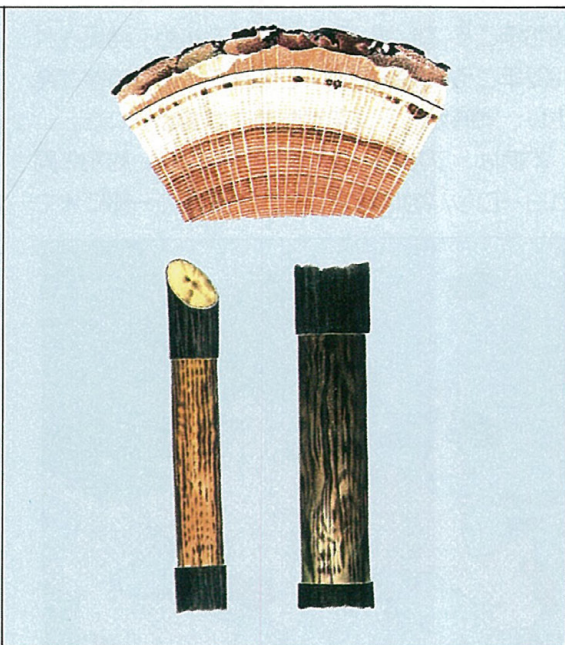
本菌に対して感受性の低いホワイトオークなどの病徴は葉の先端に黄褐色または青銅色のえそを生じる。レッドオークのように樹全体が枯死することはない、頂葉が枯死し落葉しても他の枝では落葉せず残ることが多い。白木質の変色は顕著であるが、枝枯れの進行は遅い。

樹が枯死すると本菌が形成層で増殖し、材の表面と樹皮の内側に帯状の物質を生じ、樹の表面に割れ目を生じる。この帯状の物質は初め灰色または黄褐色で分生子を多数生じて、後に暗色になる。

防除 発生国では発病樹を切り倒して焼却し、切株にクレオソートを塗布している。



アメリカオビカレハ



ナラしおれ病